

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105206		
法人名	社会福祉法人 恵心会		
事業所名	清谿園グループホーム どんぐり		
所在地	〒891-0105 鹿児島市中山町5217番地 (電話)099-263-1081		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagoshima-kaigonet.com
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、記憶や出来る力を最大限生かして利用者様が自分らしく暮らせるように、職員一人ひとりが学び、利用者様一人ひとりにハートのある支援と、ご家族がいつでも足を踏み入れ、家族や利用者様が安心出来るような施設作りを目指しています。そのため私達職員は、ケアのあり方を振り返ることに取り組み、利用者様一人ひとりに合わせたケアを展開して行く事に努めています。又人生の大先輩として尊厳ある自立へ向けたケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の16人中14人は、介護福祉士の資格を持ち、職員一人ひとりのケアサービスの向上に向けた取り組みが、利用者や家族の安心に繋がっている。
 家族の協力も得やすい関係が作られ、利用者・家族・職員が共に暮らしていると感じられる事業所である。
 毎週一回の刺身の献立やそば打ち・巻き寿司作り等食事が楽しみになるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型サービスの内容と役割を 学び理解したうえで理念を作り共有し スタッフ研修、朝夕の申し送り時、気づきや注意点など伝達し日々の実践に向けて取り組んでいる。	「地域の方とのふれあいを大切にとともに暮らしていきましょう」という地域密着型サービスとしての理念を掲げ、散歩や買い物等で利用者と地域の方々との挨拶や会話ができるように心がける等実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事等にも参加している。又散歩時挨拶等交わす中でお花や野菜等頂く事もある。回覧板を通じ防災訓練の案内も行っている。	地域の清掃活動・地域の文化祭・花火大会に参加して、利用者が地域の方々と交流できるように努めている。2年前より回覧板を通じ、地域の情報を集めたり、事業所の啓発に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域への回覧を通じ、認知症の理解や施設見学などを紹介している。地域の方の相談などにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動について写真を用い出席者に報告をし、又情報開示、外部評価、指導監査の評価報告を行い、意見をその後のサービスに反映するようになっている。	22年度は、奇数月に開催され3月までに6回開催される予定である。家族代表・町内会長・老人会会長・民生委員・近隣の住民等の参加がある。職員の名前と顔が一致できるように職員の写真を玄関に掲げる等、出された意見が反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員の来所を受けたり、市の介護相談員の派遣を受ける等サービスの質の向上に取り組んでいる。	地域のグループホームや包括支援センターでできている地域ケア会議に参加して、ケアサービスの取り組みについて話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開催し、身体拘束マニュアルを周知徹底し、実践できている。	3ヶ月毎に、身体拘束委員会を開催して、研修を重ね、身体拘束となる具体的な行為を正しく理解するように努めている。玄関の施錠をせず身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底			

鹿児島県 グループホーム どんぐり

内 部	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しその中で討議を行い、スタッフ研修やミーティングなどで説明、防止に努めている。		

頁 No	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で学んだ内容をスタッフ研修をはじめ機会あるごとに学び理解し、情報交換、共有に取り組み実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面談と見学をして頂き、契約時再度十分な説明を行い納得理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換、外部評価アンケート、施設独自アンケート、意見箱等で意見要望を聞き又普段の面会時などこまめに声掛けを行い、意見等言い易い様な雰囲気作りに努め支援の中に反映させている。	家族会・アンケート等家族の意見や思いを伝えられる機会を作っている。家族会の出席率は高く、日頃の家族との良い関係が伺え、要望・意見等をサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ研修時に機会を設けている。又必要時はその都度意見交換をしている。	管理者は、研修・カンファレンス・申し送り時に、職員の意見や提案を聞き、業務改善や介護計画に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員正社員であり、特別給付金の支給なども行い、時間内退社を心がけ、各自が向上心を持って働くよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を適切に把握し外部研修や内部研修に参加できるように機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区のグループホームの研修会に職員が交代で参加したり、近くのグループホームと相互訪問を行うこともある。又福祉・介護人材確保緊急支援事業の取り組みに入会もお願いしネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた時、本人が自分の気持ちを話す事が出来る様なスタッフの挨拶や雰囲気作りをしゆっくりと話を聞き気持ちを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や訪問時、丁寧に話を聞き、納得され利用して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案や他施設の紹介を行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	語り合いの中で本人の性格、身体状況を把握し、日常生活の中でより信頼関係を深めていくよう支援している。時には利用者から労わりや励ましの言葉を掛けてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支援することを念頭に置き、本人の様子を家族へ報告し安心してもらう中で、本人と家族がよい関係で、家族も関わっていけるような雰囲気作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の訪問などの時昔のことを伺ったり、一緒に話をしコミュニケーションを図り継続的な交流が出来るように支援した。	利用者の家族・友人へ再来所をお願いし、今までのつながりを継続できる支援に努めている。ドライブ先を利用者の思い出の場所を選んだり、家族の協力により墓参りや馴染みの場所へ外出し、大切な場所との関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や特徴を職員がよく理解し、利用者同士が和やかな雰囲気の中で生活し助け合っているよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ訪問したり、家族に対応する機会には様子伺い等し、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ、言葉や表情、行動で真意を察するようにし個別ケアに繋げている。	ケアプラン作成時に、利用者の担当職員が、細かく観察したり利用者との会話の中からの気づきを「私の姿と気持ちシート」に書き上げ、カンファレンスで話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後の面接時家族や本人からセンター方式を活用して暮らしぶりや嗜好等詳しく情報収集を行い支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の心身の状態や持てる力を日々の日誌やチェック表に残すことで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時カンファレンス、担当者会議、全体研修、ミーティング等の意見を活用し、利用者の意向に沿った意向を察した計画書を作成している。	利用者の担当職員が、毎月モニタリングを行い、介護計画作成担当者が評価し、カンファレンスで職員と利用者の思いを検討し、家族の来所時に担当者会議を開催して家族と話し合い6ヶ月ごとに介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の飲食摂取量チェックや暮らしぶり、状態変化等個別に記録、申し送り、記録ノートを活用し介護計画見直しの資料としている。勤務前のノートの確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や家族の都合により、職員の方で受診、通院の支援を柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練には地域の消防署員の参加をお願いしたり、近くの市の施設へ出掛けレクレーションを楽しんだりして心身機能の低下防止に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に承認を得、かかりつけ医に相談、適切な医療をうけている。	かかりつけ医は利用者・家族の希望に添っている。定期受診は、家族の要望があれば事業所でも対応している。体調不良時急変時には、家族に報告し了解を得て受診するようにしている。受診後は、家族に結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に同敷地内の看護師に相談及びアドバイスを支援に取り入れ、必要に応じて医療への連携に結び付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や面会時、訪問や電話を利用し病院関係者との情報提供や交換を行い早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師、理学療法士の指導や、かかりつけ医、近隣の医師の協力を得、勉強会等で検討している。	過去看とりをした経過がある。重度化した時家族と事業所ですることができる事を話し合い、家族の協力をもらい支援していくことになっている。職員は、重度化した時のケアについて勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ研修時に機会を設けている。又必要時には看護師に指導を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を受け防災訓練など定期的に行い地域への声掛けも行き、参加も頂いている。	自主訓練3回・消防署の協力により定期的に2回隣設のデイサービスと一緒に実施している。地域の自治会班の方々6名の参加があり、災害時の利用者の見守り・誘導をお願いしている。	職員が夜間に自信を持って誘導できるように、訓練に夜間想定・地震想定を多く計画して実施することを望みます。非常食・飲料水等の備品の準備を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修を行い常に前向きな姿勢で職員間も気づいた時は注意し合える関係作りに努め、尊厳を大切にし、勉強会でも再確認している。	利用者の人格の尊重・入浴時やトイレでの排泄時等での羞恥心への配慮について勉強している。個人情報については法令遵守の研修で勉強している。研修が充実し職員の意識付けが成されている。記録物は事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も強要せず、本人の希望、関心嗜好等個人を良く把握し、個人に合わせた支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちに沿って園庭レク、地域への散歩等を取り入れ、充実した生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時などこれまでの生活のあり方に出るだけ合わせ、本人の要望、家族の望みに合わせおしゃれ等職員と一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	巻き寿司作り、焼肉パーティー、手打ちソバ等食事に変化を与え、野菜の下ごしらえ、お皿拭き等職員と一緒にしている。お皿を重ねたりテーブルを拭いたり自主的にされる方もある。	年一回、法人合同の食事会でホテルでの食事、手作りの弁当を作ったの花見や事業所の庭での食事、週一回の刺身の献立など利用者の楽しみになっている。職員も一緒に食事して、会話しながら家庭的な雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養栄養士より献立の指導アドバイスを受けている。個別に水分のIN、OUTチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフ全員が口腔ケアの重要性を理解し、声掛けや仕上げ等利用者に応じた歯磨きの援助をしている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、オムツ外しも行いながら可能な限りトイレで用をたし、気持ちよく排泄出来る様支援している。	リハビリ等で筋力アップにつながり、利用者のトイレでの排泄や声かけで排泄の自立に向けた支援を行っているが、利用者の介護計画に掲げている人が少ない。	利用者全員のそれぞれの排泄の自立にむけた支援を介護計画に掲げ、支援することを望みます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食物、飲料摂取を考慮し、運動を行い排便を促すように努め、排便チェックを行っている。必要時は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状態や本人の希望により入浴を行っている。入浴を拒む人に対し言葉掛け、アプローチに工夫している。又家族に協力を得ることもある。	夏は毎日、冬は隔日に入浴している。職員は、入浴介助しながらコミュニケーションを大切に、楽しい雰囲気作りに努めている。拒む人には、声かけや家族と一緒に風呂場に入ってもらうなどの協力をもらい支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はその人の生活リズムに合わせて決まっているが、その日の気分体調により寝付けない時は、温かい飲み物やスタッフとの会話で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療記録に服薬記録があり、新規の方や薬の変更時必ず職員全員に説明し理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔を思い出しての料理教室や工作、裁縫、遠足行事参加日々のレクレーション等で生活に変化をもたせ楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望及び体調にあわせ外出支援も行っている。又家族の協力も貰いながら外出している。	晴天時には、両ユニット一緒にユニット間のウッドデッキにてお茶や昼食を楽しみながら日光浴・外気浴を実施している。利用者の思い出の場所へドライブしたり、個別には家族の協力をもらい支援している。	

鹿児島県 グループホーム どんぐり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の物の買い物に同行したり、本人で支払いの出来る方はご自分で財布より支払いをして頂いたり、品物によっては家族の了解のうえ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの連絡にはいつでも対応し、家族の了承のもと本人が要望されれば話されることもある。年賀状や手紙のやり取りをされることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光の強い時はカーテン日よけ等を利用している季節感や常に取り入れ居心地良く過ごせ、不快な音にも注意している。	2つのユニットの間にウッドデッキが作られ、晴天時には両ユニットの利用者の交流の場所となっている。廊下に配置された二人掛けの椅子や畳みの部屋に置かれたコタツは、利用者同士の会話やくつろぐ場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋のコタツや、廊下のベンチ、椅子などで自由におしゃべりをされたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持ち込まれた使い慣れた家具や仏壇を置き居心地良く生活されている。	利用者それぞれの持ち込まれた家具で個性的な部屋が作られている。各部屋からデッキに出られ、観葉植物等の世話を楽しみにしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の目印等自分の居場所が解るようにしている。夜間ポータブルトイレを使用する場合など、どうしたら自分で出来るのか状況に合わせて環境整備に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型サービスの内容と役割を 学び理解したうえで理念を作り共有し スタッフ研修、朝夕の申し送り時、理念を復唱し気づきや注意点など伝達し日々の実践に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事等にも参加している。又散歩時挨拶等交わす中でお花や野菜等頂く事もある。回覧板を通じ防災訓練の案内も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域への回覧を通じ、認知症の理解や施設見学などを紹介している。地域の方の相談などにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動について写真を用い出席者に報告をし、又情報開示、外部評価、指導監査の評価等についても報告を行い、意見をその後のサービスに反映するようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員の来所を受けたり、市の介護相談員の派遣を受ける等サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的開催し、身体拘束マニュアルを周知徹底し、実践できている。		
7		○虐待の防止の徹底			

鹿児島県 グループホーム どんぐり

内 部	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しその中で討議を行い、スタッフ研修やミーティングなどで説明、防止に努めている。		

鹿児島県 グループホーム どんぐり

自 ら	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で学んだ内容をスタッフ研修をはじめ機会あるごとに学び理解し、情報交換、共有に取り組み実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面談と見学をして頂き、契約時再度十分な説明を行い納得理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換、外部評価アンケート、施設独自アンケート、意見箱等で意見要望を聞き又普段の面会時などこまめに声掛けを行い、意見等言い易い様な雰囲気作りに努め支援の中に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ研修時に機会を設けている。又必要時はその都度意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員正社員であり、特別給付金の支給なども行い、時間内退社を心がけ、各自が向上心を持てるよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を適切に把握し外部研修や内部研修に参加できるように機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区のグループホームの研修会に職員が交代で参加したり、近くのグループホームと相互訪問を行うこともある。又福祉・介護人材確保緊急支援事業の取り組みに入会もお願いしネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた時、本人が自分の気持ちを話す事が出来る様なスタッフの挨拶や雰囲気作りをしゆっくりと話を聞き気持ちを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や訪問時、丁寧に話を聞き、納得され利用して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案を行っている。又他施設の紹介を行うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	語り合いの中で本人の性格、身体状況を把握し、日常生活の中でより信頼関係を深めていくよう支援している。時には利用者から労わりや励ましの言葉を掛けてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支援することを念頭に置き、本人の様子を家族へ報告し安心してもらう中で、本人と家族がよい関係で、家族も関わっていけるような雰囲気作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の訪問などの時昔のことを伺ったり、一緒に話をしコミュニケーションを図り継続的な交流が出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や特徴を職員がよく理解し、利用者同士が和やかな雰囲気の中で生活し助け合っていけるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ訪問したり、家族に対応する機会には様子伺い等し、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ、言葉や表情、行動で真意を察するようにし個別ケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後の面接時家族や本人からセンター方式を活用して暮らしぶりや嗜好等詳しく情報収集を行い支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の心身の状態や持てる力を日々の日誌やチェック表に残すことで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時カンファレンス、担当者会議、全体研修、定期的モニタリング、ミーティング等の意見を活用し、利用者の意向に沿った計画を察した計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の飲食摂取量チェックや暮らしぶり、状態変化等個別に記録、申し送り、記録ノートを活用し介護計画見直しの資料としている。勤務前のノートの確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や家族の都合により、職員の方で受診、通院の支援を柔軟に対応している。又その時々生じた事にもご本人に合わせ対応している。		

鹿児島県 グループホーム どんぐり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練には地域の消防署員の参加をお願いしたり、近くの市の施設へ出掛けレクレーションを楽しんだりして心身機能の低下防止に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に承認を得、かかりつけ医に相談、適切な医療をうけている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に同敷地内の看護師に相談及びアドバイスを支援に取り入れ、必要に応じて医療への連携に結び付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や面会時、訪問や電話を利用し病院関係者との情報提供や交換を行い早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いを行い、看護師、理学療法士の指導や、かかりつけ医、近隣の医師の協力を得、勉強会等で検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ研修時に機会を設けている。又必要時には看護師に指導を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を受け防災訓練など定期的に行い地域への声掛けも行き、参加も頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修を行い常に前向きな姿勢で職員間も気づいた時は注意し合える関係作りに努め、尊厳を大切にし、勉強会でも再確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も強要せず、本人の希望、関心嗜好等個人を良く把握し、個人に合わせた支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちに沿って園庭レク、地域への散歩等色々なレクリエーションを取り入れ、充実した生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時などこれまでの生活のあり方に出るだけ合わせ、本人の要望、家族の望みに合わせおしゃれ等職員と一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	巻き寿司作り、焼肉パーティー、手打ちソバ等食事に変化を与え、野菜の下ごしらえ、お皿拭き等職員と一緒にしている。お皿を重ねたりテーブルを拭いたり自主的にされる方もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養栄養士より献立の指導アドバイスを受けている。個別に水分のIN、OUTチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフ全員が口腔ケアの重要性を理解し、声掛けや仕上げ等利用者に応じた歯磨きの援助をしている。		

鹿児島県 グループホーム どんぐり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、オムツ外しも行いながらトイレサインを見逃さないよう可能な限りトイレで用をたし、気持ちよく排泄出来る様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食物、飲料摂取を考慮し、運動を行い排便を促すように努め、排便チェックを行っている。必要時は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状態や本人の希望により入浴を行っている。入浴を拒む人に対し言葉掛け、アプローチに工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はその人の生活リズムに合わせて決まっているが、その日の気分体調により寝付けない時は、温かい飲み物やスタッフとの会話で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療記録に服薬記録があり、新規の方や薬の変更時必ず職員全員に説明し理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔を思い出しての料理教室や工作、裁縫、遠足行事参加日々のレクレーション等で生活に変化をもたせ楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望及び体調にあわせ外出支援も行っている。又家族の協力も貰いながら外出している。		

鹿児島県 グループホーム どんぐり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の物の買い物に同行したり、本人で支払いの出来る方はご自分で財布より支払いをして頂いたり、品物によっては家族の了解のうえ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの連絡にはいつでも対応し、家族の了承のもと本人が要望されれば話されることもある。年賀状や手紙のやり取りをされることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光の強い時はカーテン日よけ等を利用している季節感はず常に取り入れ居心地良く過ごせ、不快な音にも注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋のコタツや、廊下のベンチ、椅子などで自由におしゃべりをされたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持ち込まれた使い慣れた家具や仏壇を置き居心地良く生活されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の目印等自分の居場所が解るようにしている。夜間ポータブルトイレを使用する場合など、どうしたら自分で出来るのか状況に合わせて環境整備に努めている。		